

# 茅ヶ崎城跡(横浜市)

築城年代:室町時代、築城者:扇谷上杉氏

横浜市営地下鉄「センター南」駅ビルから見た茅ヶ崎城跡/北西側から見たところ



現在は茅ヶ崎城址公園となっている/北側の入口/右手の上は北郭/左手は土塁



右手を見たところ/正面のマウンドの上が北郭で、そこから道路の右手にあった北側の外郭にかけての土橋があったと云うが、道路を通すために消滅している



それでは公園内に入りましょう/前方の建物はトイレ



少し進んで右手を見たところ/前方の平場が北郭/西方向を見たところ



説明坂が立っている





茅ヶ崎城址は、「空堀」「郭」「土塁」などが良好な状態で残る、貴重な中世城郭遺跡です。早淵川を北に望む自然の丘を利用して築城されています。

茅ヶ崎城は14世紀末～15世紀前半に築城されたと推定され、15世紀後半に最も大きな構えとなります。16世紀中ごろには二重土塁とその間に空堀が設けられました(この築城方法は、後北条氏独特のものとされる)。築城には、それぞれの時期に相模・南武蔵を支配した上杉氏(室町時代)や後北条氏(戦国時代)が関与していたと推定されます。

16世紀末までには、城としての役割は終わります。江戸時代には、徳川氏の領地となり、村の入会地(共有地)などとして利用され、「城山」という地名とともに、今日まで保存されてきたのです。茅ヶ崎城址は、貴重な歴史資産なのです。

鎌倉時代	室町時代	戦国時代	徳川時代
1333年	鎌倉幕府が滅びる	1416年	室町幕府が滅びる
1338年	足利尊氏 室町幕府を開く 鎌倉に「鎌倉府」を置く	1429年	織田信長 安土城を築く
		1453年	本能寺の変 織田信長 豊臣秀吉に討たれる
		1467年	徳川家康 小牧・長久保合戦で徳川氏に降参
		1478年	徳川家康 小牧・長久保合戦で徳川氏に降参
		1486年	徳川家康 小牧・長久保合戦で徳川氏に降参
		1495年	徳川家康 小牧・長久保合戦で徳川氏に降参
		1510年	徳川家康 小牧・長久保合戦で徳川氏に降参
		1573年	徳川家康 小牧・長久保合戦で徳川氏に降参
		1576年	徳川家康 小牧・長久保合戦で徳川氏に降参
		1582年	徳川家康 小牧・長久保合戦で徳川氏に降参
		1583年	徳川家康 小牧・長久保合戦で徳川氏に降参
		1590年	徳川家康 小牧・長久保合戦で徳川氏に降参



鎌倉時代		
南北朝時代	1333年	鎌倉幕府が滅びる
	1338年	足利尊氏 室町幕府を開く 鎌倉に「鎌倉府」を置く
室町時代	1416年	上杉禪秀の乱 鎌倉公方 足利持氏が敗走
	1439年	永享の乱 鎌倉公方 足利持氏 鎌倉永安寺で自害
	1453年	享徳の乱 鎌倉公方 足利成氏 古河へ逃れる(古河公方)
	1457年	太田道灌(扇谷上杉氏の家臣)江戸城を築く
	1467年	京都で応仁の乱がはじまる
	1478年	太田道灌 小机城を落城させる
	1486年	太田道灌 相模国糟谷館(伊勢原市)で討たれる
	1495年	北条早雲 小田原城を奪取する。
戦国時代	1510年	権現山の戦い 上杉軍により権現山城(神奈川区)が落城
安土桃山時代	1573年	室町幕府が滅びる
	1576年	織田信長 安土城を築く
	1582年	本能寺の変 織田信長討たれる
	1585年	豊臣秀吉による天下統一がはじまる
	1590年	後北条氏(小田原北条氏)が豊臣秀吉に滅ぼされ、徳川家康が関東一帯をおさめる





## 横浜市指定史跡

# 茅ヶ崎城址

所有者 横浜市  
所在地 横浜市都筑区茅ヶ崎東二丁目25番  
時代 14世紀末～16世紀  
指定 平成21年11月2日

築城当時の姿を良好な形で残す市域唯一の中世城郭の貴重な遺跡として、公園部分約25,000㎡が横浜市指定史跡に指定されました。

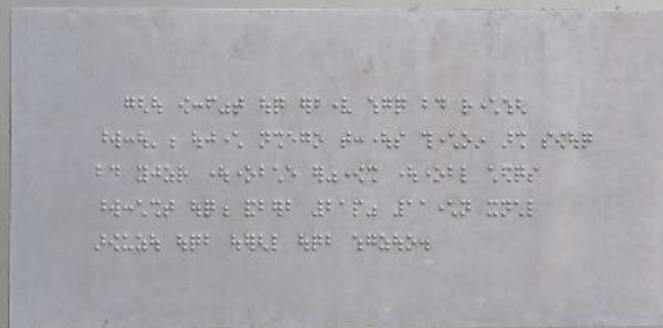
茅ヶ崎城址は、江戸時代後期に編纂された「新編武蔵風土記稿」では、平安時代末期の摂津守頼盛の子、多田太郎が城主と伝え、多田山城守壘跡とも呼ばれていました。

平成2年から平成20年までの7次にわたる発掘調査の結果、空堀や土塁等の遺構が良好な形で遺存していることが明らかになりました。発見された陶磁器・かわらけ等の遺物から14世紀末から15世紀前半に築城され、16世紀にかけて使用されていたことが判りました。

城を築いた者などは不明ですが、城は、東西350m、南北220mの範囲で、6つの郭(西・中・北・東・東下・東北)と根小屋地区などから構成されています。

平成22年3月

横浜市教育委員会



これは振り返って東方向を見たところ/正面前方に東郭があり、右手の上は中郭



これは公園の入口方向を見たところ/左手が北郭/北方向を見たところ



さて、これが北郭/南東側から見たところ



右手を見たところ



左手を見たところ



更に左手を見たところ/前方へ進むと西郭があるようだ/後程行ってみよう/左手の上は中郭



説明板が立っている





## 城の土地と歴史的背景

茅ヶ崎城は、早瀬川中流右岸の三角山(現:センター駅付近)の地形から東に連なる丘陵の先端部に築かれた五城です。標高は28m~35mあり、最高所は中部南西隅の土塁上で、およそ40mあります。

当地域は、武蔵国南部にあたり、関東の政治の中心地である鎌倉に隣接しています。茅ヶ崎城の近くには、関東各地と鎌倉を結ぶ鎌倉道のうち「中の道」が通っていたと考えられており、東側には後の中原街道、西側には先倉沢街道(大街道)が通っています。また、早瀬川沿いの道は神奈川港(横浜市神奈川区)と武蔵国府(東京都府中市)を結ぶルートのひとつでした。茅ヶ崎城は、このような交通の要衝の地に自然の地形を巧みに利用して築かれていたのです。

## 茅ヶ崎城をとりまく歴史的背景

1338年、足利尊氏が京都に室町幕府を開くと、鎌倉には関東の統治機関として鎌倉府が置かれ、「鎌倉公方」足利氏と、その補佐役の「関東管領」上杉氏が力をもちます。

15世紀半ばになると、鎌倉公方と上杉氏の対立、また、上杉氏一族の内紛が激しくなり、関東を中心に大規模な戦乱が起こります。1476年の上杉氏家臣長尾景春の乱では、小机城が大田道灌に攻め落とされます。

15世紀終わり頃、伊勢新九郎長氏(北条早雲)は関東支配を進め、1495年の小田原城の奪取をはじめとして、関東各地に支城を中心とした領国をつくっていきました。このころ茅ヶ崎城は、周辺の城とともに小机城を中心とする後北条氏の勢力下に組み込まれていたと考えられています。茅ヶ崎城の最高所に高さ8mほどの櫓を設置すれば、およそ3.5km離れた小机城を望むことができたようです。

1590年には、豊臣秀吉の軍勢がの地に押し寄せます。この時、茅ヶ崎城を含む11ヶ村に対して軍勢による略奪や放火を禁止した豊臣秀吉の禁制が発布されています。その後、徳川家康による江戸幕府の関府を経て、1615年に一國一城令が出されると、多くの城は廢城となりました。

## 発掘調査のあらざ

### ●平成2年度~平成10年度

保存・活用をはかる基礎資料を得るため、城内全域を対象とする7次にわたる試掘調査を実施。

### ●平成15年度・平成17年度

公園の整備事業に伴い、北部の一部と中部南東側土塁の一部の発掘を実施。

これらの調査により、堀や土塁・土橋の様子や明らかになり、中部東部の建物跡・北郭の井戸などが発見されました。その他、弥生時代後期・古墳時代後期・平安時代の竪穴住居あとなど、より古い時代の遺構も見つかりました。

出土品には、それらの時代の土器のかけらや、縄文土器のかけらもみられます。茅ヶ崎城に関与する出土品には、かわらけ・陶磁器をはじめ、石臼・硯などのかけらや鉄釘・銭などがあります。



茅ヶ崎城の変遷



郭・土塁・空堀の模式図



## 茅ヶ崎城の作り変わり

茅ヶ崎城は早瀬川に張り出す自然の丘のくびれ部を掘削して築かれています。規模は、東西330m、南北200m、総面積はおよそ55,000㎡あります。複数の郭が連なる形式で、郭を取り巻く空堀、郭の外縁部に築かれる土塁などで構成されています。天守閣のような大きな建物や石垣はありませんでした。

発掘調査の結果、築城年代は14世紀末~15世紀前半頃と考えられ、少なくとも2度にわたる大規模な改築のあとが認められました。

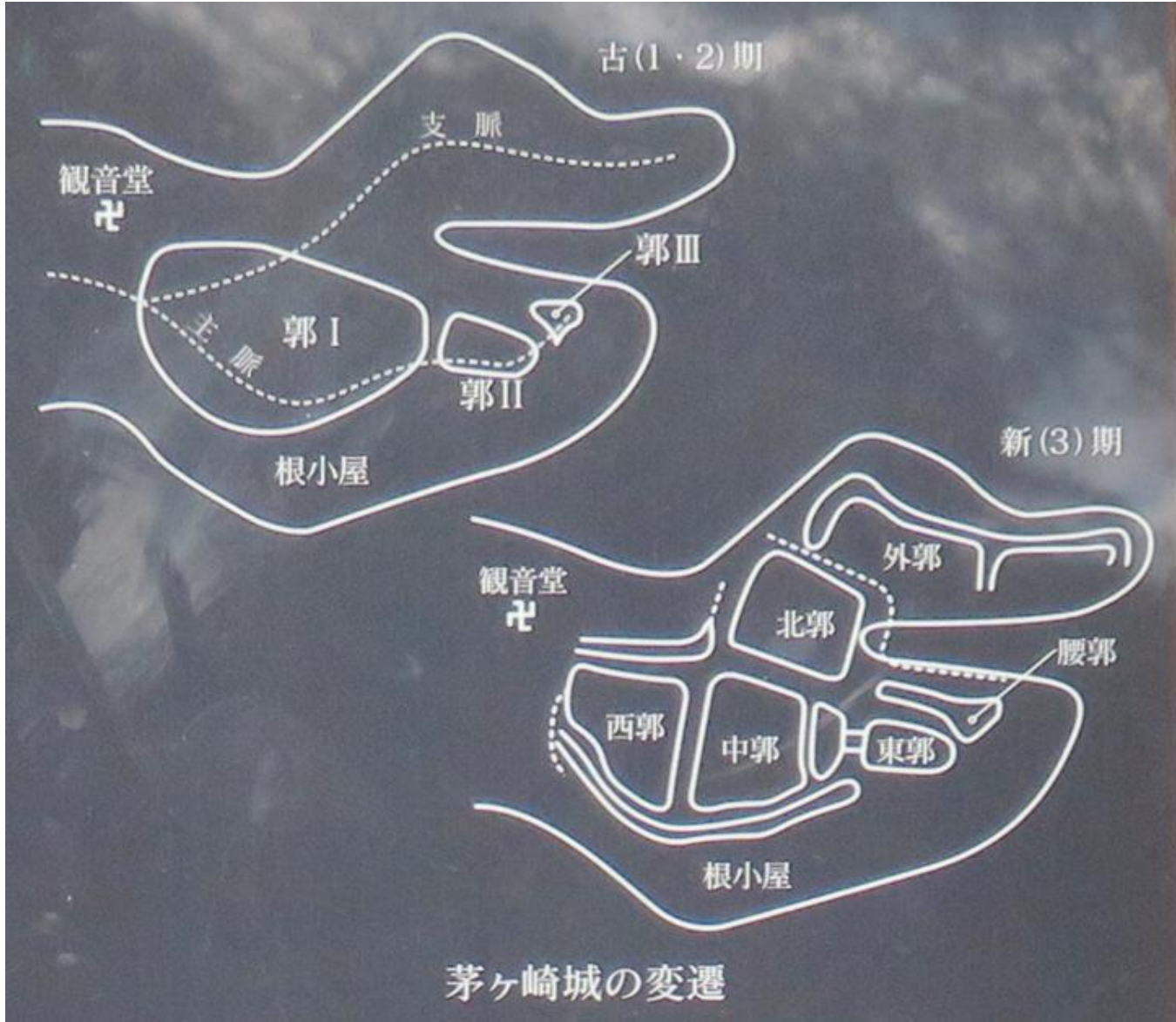
築城当初は、東西2つの郭のみでしたが、15世紀後半頃には、土塁の改築と空堀の掘り直しが行われ、郭が西郭・中郭・東郭・北郭の4つになったと考えられます。中部(当初の西側郭)の南東部から、倉庫と考えられる建物などがみつかっています。この時期は相模国と武蔵国を支配していたのは関東管領上杉氏であり、茅ヶ崎城の改築にも影響を与えていたと推定されています。

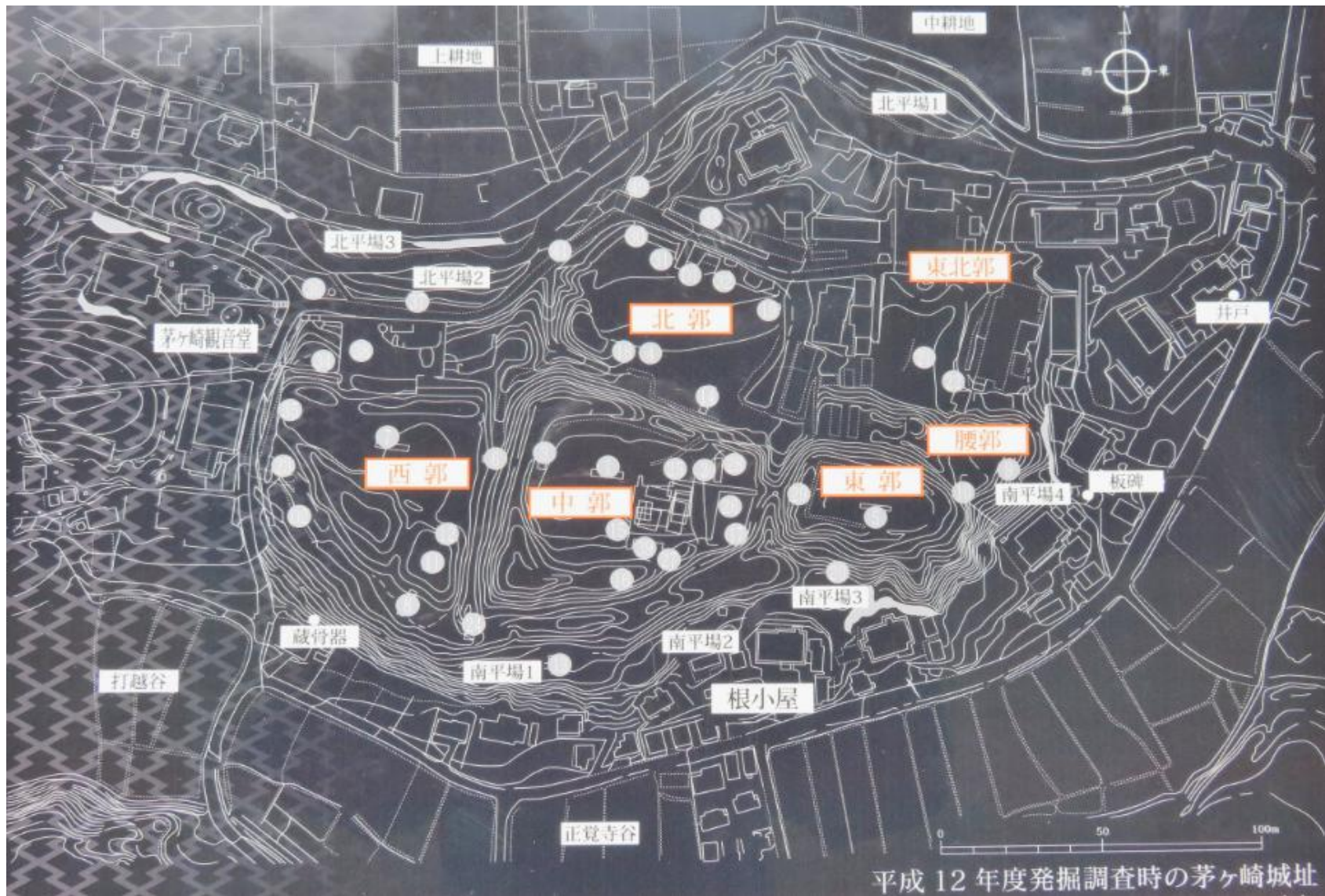
16世紀中頃には、二重土塁の間に空堀をめぐるなど、後北条氏独特の築城方法による防備の強化がなされています。中部の東寄りには新たに「中堀」も掘られていました。この堀の脇に土塁が見られない点から、防備の強化は未完成のままであった可能性もあります。この頃の城主については、後北条氏の家臣団で小机衆のうちの座間氏や深沢備後守という説があります。

茅ヶ崎城の南側の谷に望む山すそから、かつては14・15世紀のものと考えられる常滑産の磁器や板碑が発見されています。墓地に伴うこれらの出土品は、「根小屋」とよばれる平時の生活拠点エリアが形成されていた可能性があることを物語っています。

中世城郭は、軍事拠点としてだけでなく、戦時における地域の避難施設でもありました。

城内には、籠城の備えとしての食べ物を貯え、井戸を掘ることが行われました。また食料になるように植物も植えられ、管理されていたと考えられます。





平成 12 年度発掘調査時の茅ヶ崎城址

こちらは井戸跡のようだ





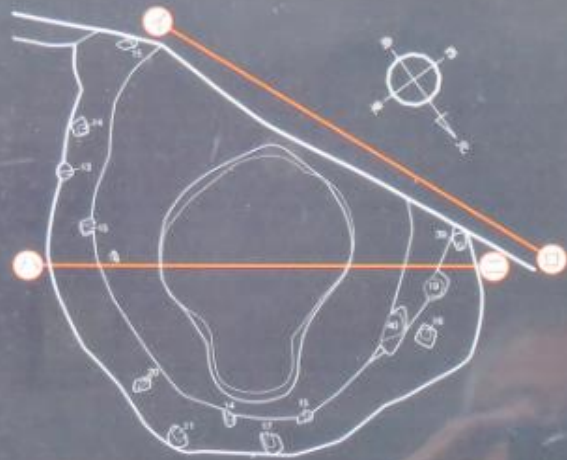
戦となれば長期に立て籠もることもあった城にとって、建築する土地を決める際に水が湧く場所かどうかも重要な要素でした。

井戸は重要な設備として城内に複数つくられ、また、警護も厳重でした。

茅ヶ崎城址では北郭で上端の直径約四メートル、深さ五メートルほどの井戸が見つかっています。この井戸の湧水量は極めて多く、使用時にはかなりの量の水を確保できたと考えられます。遺構確認面から井戸底まですべてに水がたまっていたと仮定すると二十リットルポリタンク約千本分にも達します。

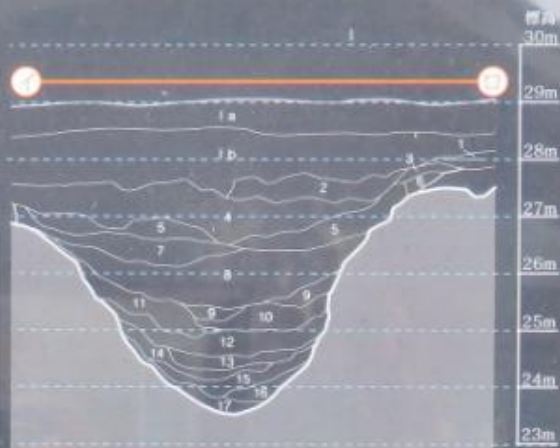
井戸の周囲からは使用する際に、横板や梁を渡して水を汲む簡素な施設が建設されたと思われる遺構がみつかっています。





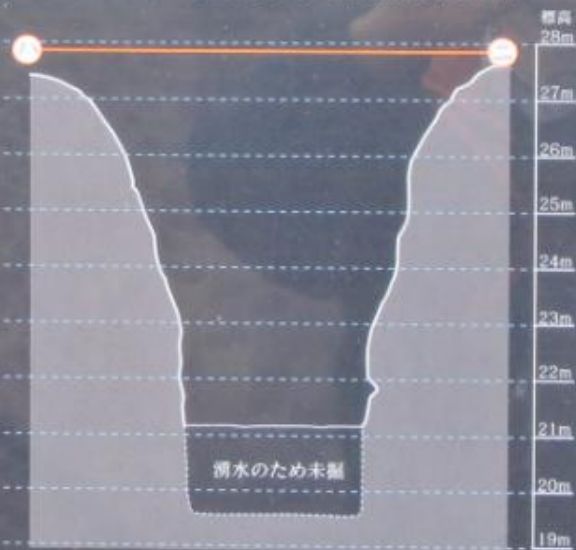
井戸跡平面図

数字は水を汲み出す施設をつつた跡と推測されています。



井戸跡イ-ロ断面図

1a から 17 は堆積土、人為的に埋め戻されてはいなかったようです。



井戸跡ハ-ニ断面図



発掘時の井戸跡

こんな説明板もあった/公園入口の右手に見えた北郭から道路の右手にあった北側の外郭にかけての土橋について記されている





## 北郭土橋

北堀の中央西部を掘り残したもので、上幅は二・九メートル、下幅は四・五メートル以上あります。横断面は幅広の台形で東壁は六十度・西壁は七十度となっていました。

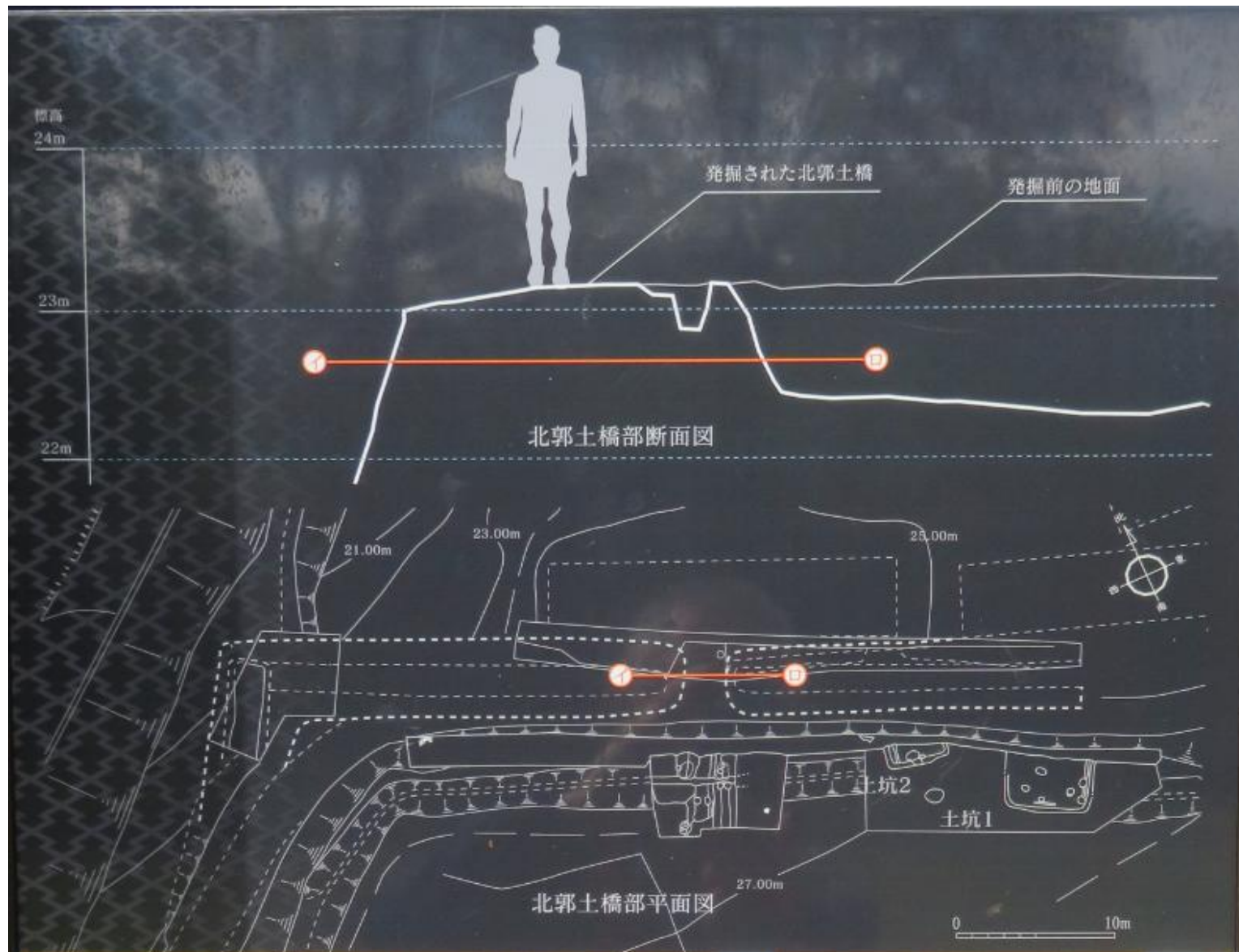
土橋とばしに続いて、幅二メートル弱の土を固めた道路が郭内ちやうけつにのびています。この道が始まる両側には対になる柱穴ちやうけつがあり、木戸の痕跡と考えられます。

## 土橋

土橋は「虎口こぐち」とよばれる、城の出入口に設けられる施設です。一般的には、郭周辺からほりの空堀からほりの一部を掘り残してつくられます。

茅ヶ崎城址では、北郭土橋きたかくらんどばしと西郭土橋にしかくらんどばしのように空堀を掘り残してつくられたものと、中郭土橋なかくらんどばしのように東郭と結ぶために空堀の一部を埋めてつくられたものがあります。北郭土橋と西郭土橋は、早湊川沿いの道に向かって設けられています。







それでは詳しくその北郭土橋の跡を見てみよう



擁壁の上部に土橋と記された標柱が立っている



この高さで土橋が道路の左手の北側の外郭にかけて続いていたらしい



土橋の上に登って見下ろしたところ



さて、これは北郭を北側から南方向に見たところ/前方の上が中郭で、そこへ登る階段が見える





近づいて見たところ/この上が中郭/階段の両サイドは土塁となっている



さて、ここは公園の北西側の入口





今度はこちらから進んでみよう/このルートが城内への正規の登城口のような



正面は中郭の城壘/左手に進むと先程の北郭/右手に進もう



振り返って今登って来た所を見たところ



こちらは左手の北郭方面/右手は中郭の城塁



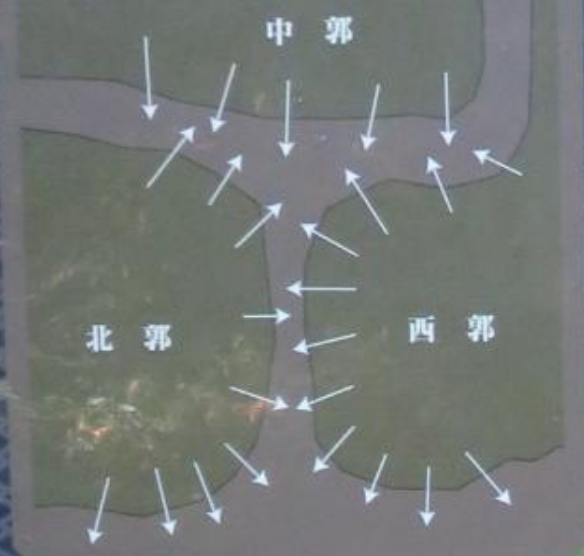
右手に進むと園路は左手に折れており、前方に説明坂が立っている/左手は中郭の城壘







堀を曲げることで  
進入する敵に横・後から  
矢を射掛けることができます



※この図は「北郭虎口」を想定したものです。

# 虎口

城の出入り口は、「虎口(小口)」といわれています。いざというときに、すぐに封鎖できるように、また敵が侵入しにくいように、できるだけ幅を狭くしています。城の防御と攻撃の両面において重要な場所であり、様々な工夫が加えられました。「横矢」という侵入しようとする敵に横から矢を射掛けるための構造や屈曲した堀などの「折邪」とよばれる構造が見受けられます。

茅ヶ崎城址では北側に推定する説がありますが、まだ発掘調査による確認がされていません。東郭南側にも虎口の存在が推定される場所があります。



左手に折れた先を見たところ/ここは空堀で左手は中郭の城壘、右手は西郭の城壘/前方にも説明坂が立っている



振り返って北郭虎口を見たところ





# 空堀

堀は水の有無によって水堀みずぼりと空堀からぼりに分けられます。水堀は主に低地の城につくられ、堆積物たいせきぶつで埋まりやすい難点があります。水がしみ通ってしまいうろむ層を基盤とする横浜の城では空堀が多くつくられました。空堀は底が土で、その形状は横断面が逆台形の「箱堀はこぼり」が多く見られました。

茅ヶ崎城址の堀は、両側の壁が七十度と垂直に近く、また、ローム層が堅いために取り付きにくく、防御面で大変すぐれていました。









北郭空堀(西から)



北郭空堀(東から)

空堀のその先を見ると右手に登る階段がある



西郭と記された標柱が立っている



西郭に登ったところ



そこで左手を見たところ/この奥は土塁が回っているようだ



右手を見たところ





西方向に進む





右手を見たところ



その左手を見たところ



西側に突き当たった所で西方向を見たところ/この下は急峻な斜面となっている



振り返って東方向を見たところ



そこで右手を見ると西郭を回り込むように園路が続いている



西郭を反時計回りに回り込むように南側に進んでみよう



その園路を進むと左手は西郭の土塁、右手は急峻な斜面



左手を見ると土塁と記された標柱が立っている





更に進むと左手に入る道がある



これがその道



行き先表示の天端に記された位置図



その先はこんな塩梅/西郭のエリアの堀切であろうか



これは振り返って急峻な斜面側を見たところで、こちらにも通路があるようだ



これは今進んで来た方向を見たところ/右手は土塁、左手は急峻な斜面



さて、更に進むと説明坂が見えて来た









生活



生活

生活とは、日々の営みである。竹は、私たちの生活に欠かせない存在である。竹の葉は、茶の葉として利用され、竹の皮は、紙の原料として利用される。また、竹の節は、建築材料として利用される。竹は、私たちの生活に欠かせない存在である。



## 生活

人々は身近にはえている植物から、有用なものを見つけ出し積極的に利用してきました。

果樹は、甘いものの少なかった平安時代頃までは菓子(水菓子)として珍重ちんじゆうされてきました。この中で、クリは栄養価が高く日持ちもよいことから縄文時代から重要な食料とされ、乾燥させて兵糧ひやうりゆうや飢饉ききんの際に食料として用いられました。

ヨモギ、ゲンノシヨウコ、タンポポなどの野草は人家の近くで簡単に手に入り、それぞれ鎮痛ちんつう、腹痛、健胃けんいなど薬用としての効果が高いため広く利用されてきました。

また、竹の利用も多く、中世の頃はマダケや、タケノコを食用とするほか、繊維せんいの密度や柔軟性、つやなどに優れるため、建築材や弓、農具など幅広く利用されました。ハチクはマダケ同様の利用のほか、細く割ることが出来るため茶筌ちやせんとして、ヤダケは弓矢の材料とされました。

現在、多く植えられているモウソウチクは江戸時代中期に広まりました。



そこで振り返って北方向を見たところ/正面の園路は先程見た中郭(右手)と西郭(左手)との間の空堀



左手を見たところ/西郭の土塁の感じが見て取れる



左手を見たところ/中郭も土塁が回っている



これは中郭(右手)と西郭(左手)との間の空堀を少し進んだ所/前方が北郭虎口



さて、先程の園路を更に東方向に進もう/左手は中郭の城壘、右手は急峻な斜面



右手を見下ろすと竹林が見える





こんな塩梅



更に東方向に進む



ここで園路は二股に分かれている/右手を進むと東郭へ、左手に進むと中郭に至る





まず、東郭へと進もう



左手を見ると中郭への南東側の虎口が見える



その虎口をアップで見たところ



東郭へと進むと右手に説明坂が立っていた





南・東の崖面麓に平場が展開し、そこに城主や重臣達の居住地区である根小屋があったと云う





茅ヶ崎城址南部(昭和 52 年)

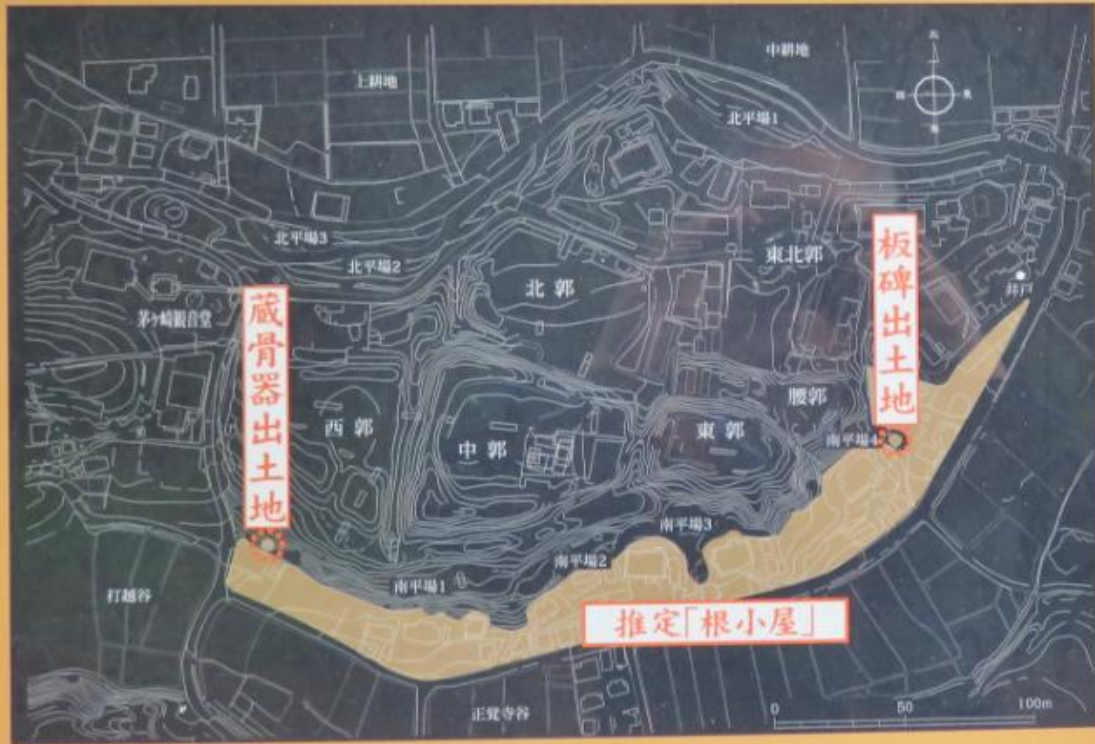


城の麓の根小屋で生活していました

# 根小屋

根小屋とは城下町というものがまだない時代の、城主や重臣達の居住地区のことです。この時代の城主は普段は本丸や主郭に居住せず、郭の麓につくられた根小屋で生活し、いざ戦となつたときにのみ、城に籠もりました。

茅ヶ崎城址では南・東の崖面裾に幅十〜二百メートル、東西六メートルに及ぶ平場が展開しており、十四世紀から十五世紀に蔵骨器や板碑などから成る墓地を伴う屋敷があったと考えられています。



前方の階段を登ると東郭に至る/その手前に説明坂が立っている



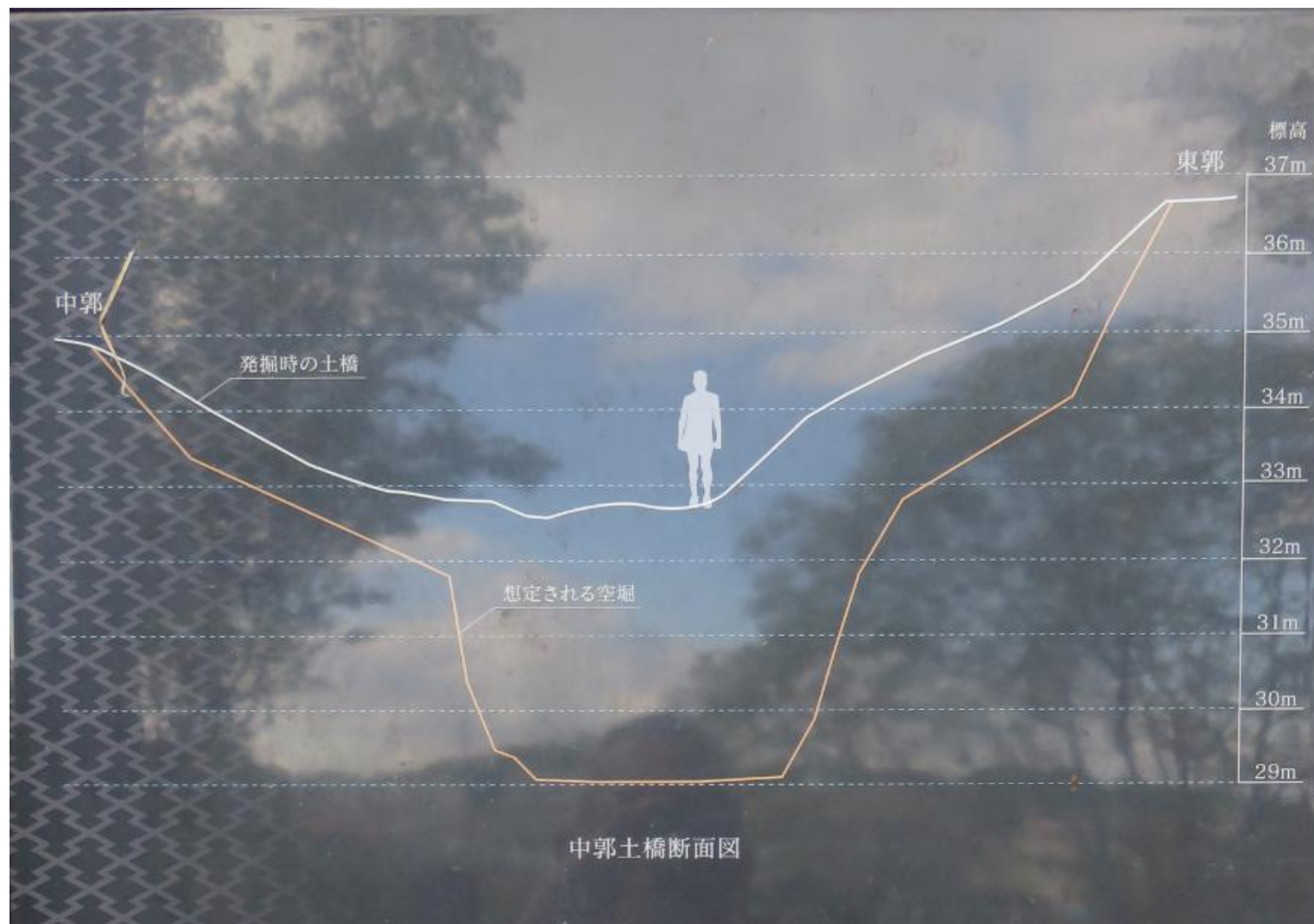


# 中郭土橋



中郭土橋は、中世の城郭跡を示す重要な遺構である。この土橋は、城郭の内部と外部を結ぶための重要な交通手段であり、その構造や築造方法から当時の建築技術や防御体系を推察することができる。また、この土橋の存在は、当時の城郭の規模や位置を明確に示す重要な手がかりとなる。





## 中郭土橋

中郭と東郭は上幅十四メートル・深さ七メートルの堀によつて隔てられていますが、その中央部は土橋によって連結されています。土橋は上幅約二メートル・下幅約十五メートルで、上面は中郭より約二メートル・東郭より四メートル低くなっています。このため中郭への上り下りは容易ですが東郭方面は何かに掴まらないと登れないほどの急傾斜でした。

調査の結果、この土橋は地山を掘り残したのではなく、盛り土によって形成されていたことがわかりました。土橋の下には空堀があり、中郭東側と東郭の土塁は失われていることから、城の後半または廃絶後に通路としてつくられたようです。



これが中郭(左手)と東郭(右手)との土橋





東郭へは急激な階段を登って行く



右手を見ると東郭虎口と記された標柱が立っている



こな塩梅



さて、東郭へと進もう



途中で振り返って見たところ/左手が東郭虎口



ここが東郭/もっとも高い位置にあり、いわゆる主郭の部分だと云う/南東側から北西方向に見たところ



これは東側から西方向に見たところ/説明坂が立っている





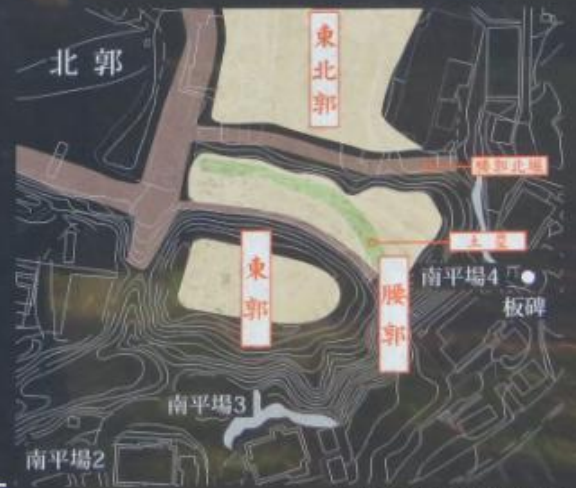




平成2年発掘調査時の東郭 左が東郭、中央やや右が土橋



茅ヶ崎城址の郭の高さ(標高)



東郭、腰郭周辺図

## 東郭

東郭は城の中でも最も高い位置にあり、「中原街道」や「矢倉沢街道」の街道筋を見渡せるほど見晴らしがよいため物見台の役割を持っていました。

また、城郭の中でも最高所にあるため、戦の際には最後に逃げ込んで籠城する場所と推定されます。

## 腰郭

腰郭は東西六十メートルの帯状をなし、東北部は約二百平方メートルの平地となつています。東側は急な崖で、北側には幅十メートルほどの北堀があり、東北郭との間を遮断しています。この北堀の内側には土塁が延びています。この郭は、武者溜としての役割があったと推定されます。



東郭の北側には腰郭があり、その更に北側には堀を挟んで東北郭があるようだが、木々があったり住宅が建っていたりして確認できない





# 燃料

**木質バイオマス**

木質バイオマスとは、木材の加工過程で発生する木くずや、伐採された木材のチップ、スラット、チップ材などを指します。これらは、燃焼によってエネルギーを生産し、発電や暖房に利用されます。また、バイオマスは再生可能な資源であり、持続可能なエネルギー源として注目されています。

**木質バイオマスの種類**

- 木材チップ
- スラット
- チップ材
- 木くず

**木質バイオマスの利用**

木質バイオマスは、主に燃焼によってエネルギーを生産します。これは、発電や暖房に利用されます。また、バイオマスは再生可能な資源であり、持続可能なエネルギー源として注目されています。

## 燃料

ライターやガスコンロなど、現代はすぐに火をつけられる便利な道具がたくさんありますが、数十年前まで、炊事や暖房、様々な場面で火を必要とし、また、火をおこすために利用された植物も様々でした。

コナラやクヌギは薪炭材しんたんざいとして重要で、雑木林として管理されました。

また、スギの葉は精油を含んでいるため乾燥させるとよく燃え、灰の量も少ないため、焚きつけとして利用されました。

綿、チガヤやガマの穂は火口ひぐちに使われました。火口とは火花を受け止め火種に変える炭の一種で、原料を蒸し焼きにしたものを煙硝えんじょうに、炭や染料で赤黒色等に染めたものです。火打ち箱に入れて火種用に使いました。

火打石での火の付け方は利き手きぎてに火打金を反対の手に石を持ちます。石の鋭い角を選び火口をひとつまみ乗せ、親指で軽く押さええます。火打金でカチツと打つと、火花が幾筋かはじけ飛んで火口に落ち着火します。これにそつと息をふきかけ火種を大きくします。

これは西側から東方向に見たところ



ここで、最初に公園に入って来た所から、東郭を試みよう



前方が東郭





近づいてみる/右手が東郭で正面のエリアは腰郭か



最初の公園入口で東方向を見たところで、前方の土塁の向こうが東北郭のエリアか



道路を少し進んで右手を見たところ/土塁の裏手はこんな塩梅



その先に進んで右手を見たところ/この辺りは東北郭なのか/前方の小高い部分が東郭



さて、いよいよ前方の上にある中郭を見てみよう





階段を登る/両サイドは中郭を回る土塁



左手を見たところ





右手を見たところ



ここが中郭/南方向を見たところ



左手を見たところ



右手を見たところ

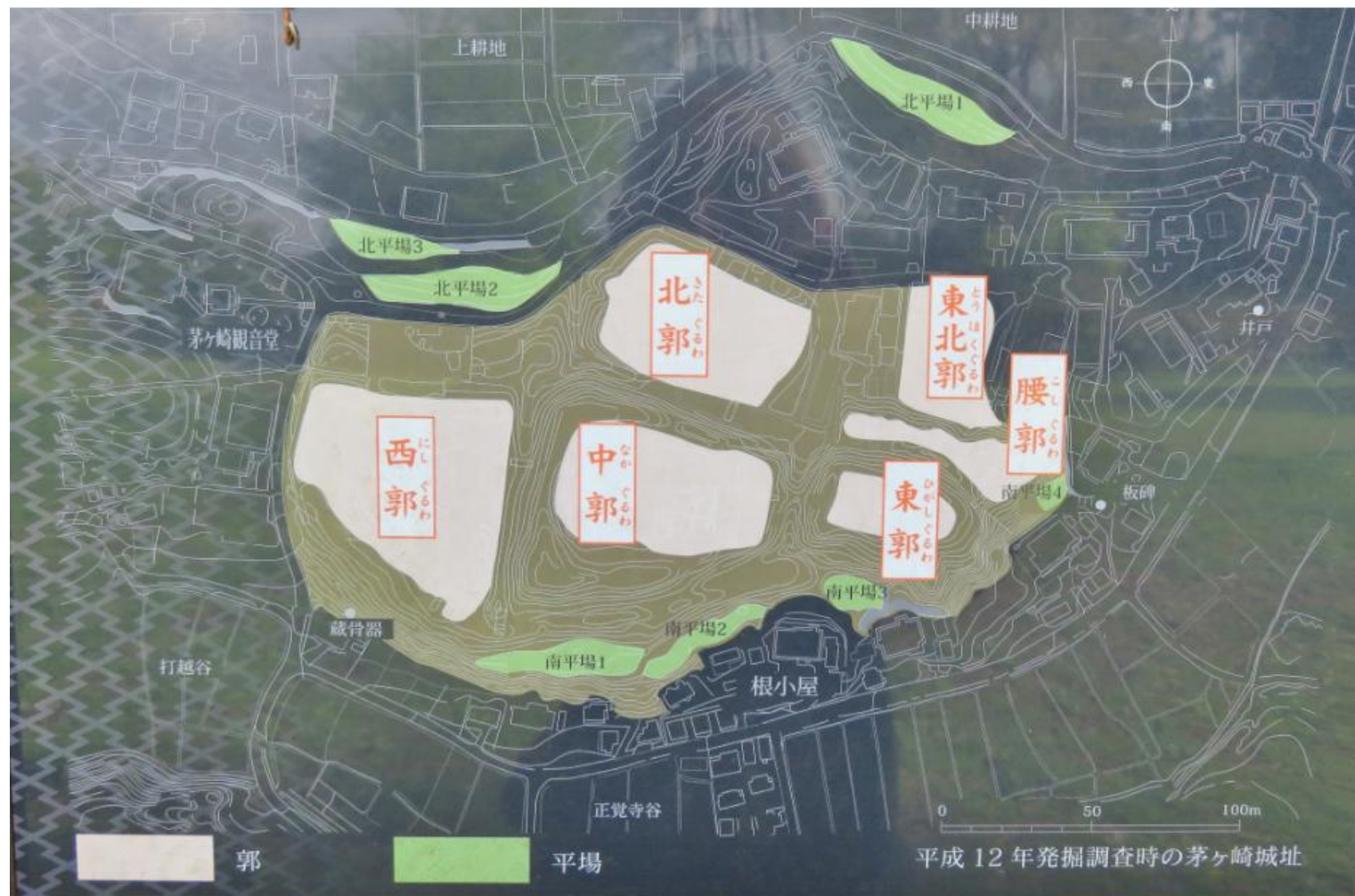


説明坂が立っている











# 郭

堀や土塁、石垣などで囲まれた区画を郭くわくといい、「曲輪くるわ」とも表記されます。江戸時代には「丸まる」とも呼ばれました。城は、郭をいくつも作り出すことで成り立っています。城の中心となる郭は、「主郭しゅかく」または「本曲輪ほんくるわ」と呼ばれ、江戸時代には「本丸」と呼ばれました。

また、戦国時代の丘陵おかしろは、自然の地形を巧みに利用して築かれています。主要な郭の外側や丘陵の中腹にもさまざまな区画が見られます。主要な郭をめぐる堀の外側を取り囲むように作られる「帯郭おびかく」、主要な郭の外側の一部に作られる「腰郭こしかく」などがその代表といえます。

## 茅ヶ崎城址の郭

茅ヶ崎城の場合、石垣は見られず、堀と土塁によって区画されています。「東郭」・「中郭」・「西郭」・「北郭」の4つが主要な郭です。「東郭」が主郭に相当すると考えられます。東西五十メートル、南北二十メートルの不整形長方形をしており、頂部ていぶの平坦面へいたんめんが「中郭」より三メートルほど高い位置にあります。建物などの痕跡はまだ確認されていませんが、この郭は、戦闘時における最後の拠点きょてんとなる場所でもあったと推定されます。

茅ヶ崎城では、「東郭」北東部に接する一段低い位置に「腰郭」が見られます。その北西には東北郭とうほくかくがありますが、この郭の詳細は明らかではありません。また、それぞれの役割は不明ですが、丘陵の中腹には「平地ひらち」と呼ばれるテラス状の平坦部が複数見られます。





出土した土器は大半が小・細片さいへんで全形が判明したのは数個体に過ぎません。色調は明褐色めいこくしやくや淡橙色たんとうしやくで、まれに灰褐色かいこくしやくのものがありました。ロクロを用いて作られています。皿型で縁が薄くなっている武蔵型むさしがたと呼ばれるものです。6・7・8・17は大型で直径15cmから18cm、高さ4cm前後、厚さが1～1.5cmあります。1～3・5・9～14・16・18は中型で直径12～15cm、高さ3cm程度です。武蔵型の内底には反時計回りの渦巻き文うずまきぶんが施されています。4は相模型あひまがたといわれ小型品が出土しています。相模型は縁が立ち上がって椀わんの形をしているのが特徴です。

# 土器

国産陶器・中国磁器とともに出土した中世の土器には、出土場所ごとでの顕著な違いが見られないことから、比較的短期間に製作・使用されたものと考えられます。

これらの土器はすべてロクロ造りで体部が外反する坏形(武蔵型)のものがほとんどでした。土器の内底には渦巻状の文様が記されています。

この土器は茅ヶ崎城址を特徴づけると共に、武蔵、伊豆の十五世紀のいくつかの城から出土しています。

その他の出土品としては石臼・硯・銭・鉄釘などがあります。

また、中世以外の土器として縄文土器、弥生土器・土師器、須恵器などが出土しており、この丘陵地に大昔から集落が発展していたことがうかがえます。



振り返って北方向を見たところ



左手を見たところ



右手を見たところ



正面の向こうは北郭/こちらも両サイドに説明板が立っている







北郭南土塁西部に試掘調査区を設定しました。  
堀に面した外側は緩傾斜でしたが郭内部は  
削られて垂直になっています。地層から判断  
するに北郭南土塁は下半分を削り出し、  
上部に盛り土して築いたことがわかります。



中郭土塁(西側)



中郭土塁(東側)

# 土塁

堀を掘った土を盛って築き上げた堤つみのことで、敵を阻止し反撃する際の足がかりとする役割がありました。したがって規模の大きな土塁ほど防御効果が大きいといえます。

堀と土塁どるいの築造ちくぞうは一体となって行われ、表土ひょうどを削り、土盛りどちもをする部分は山の斜面を平らに削って帯状のテラスを作りました。ここに黒土を置いて叩きしめ、盛り土が崩れないように基礎を作りました。このテラスからやや下った場所を等高線沿いに掘切ほりきり、排土はいどを斜面下方に水平に積んでいき土塁どるいとしました。本城址の主な土塁は堀底ほりぞこから七メートルから八メートル、郭内くわくわから高さ二・五メートル以上、基底部きていぶの幅は七メートルから八メートルあったと推定されます。

土塁の側面には「武者走り」とか「犬走り」とよばれる施設がつくられました。これは、連絡用の通路としての役割とともに、土塁を越えようとする敵を上方から攻撃するための足場としての役割もありました。





右手を見たところ/土塁が回っている



中郭を西側から東方向に見たところ



左手を見たところ/土塁が回っている



右手を見たところ/こちらも土塁が回っている





中郭を東側から西方向に見たところ/左手前に石列がある



これがその石列/建物跡の位置を示していると云う







# 遺構

遺構とは、土地（地中）に残された基壇きだんや柱穴ちゆうけつ、墓などのことで、昔の構造物の様式や配置などを知る手がかりとなるものです。

## 倉庫の発見

中郭なかくわの住居域と見られた部分の内容を明らかにするため、郭くわ内南東部の発掘調査を行いました。その結果、全面に多数の柱穴ちゆうけつや土坑どこうが分布し、東西・南北に軸を持つ堀立柱ほったてばしら建物が並び、南土塁との間を塀で区切っていることが明らかになりました。

建物1〜3内の土坑は陶器の埋納坑まいのうこうと推定され、これらの建物は倉庫と考えられます。また、建物5から炭化材たんかざいとともに焼けた壁土かべつちのかけらが多数検出され、焼失した土倉どそうと判明しました。

このことから、中郭南東部は倉庫地区であることが明確となりました。また、遺構はその重なりや位置関係から四〜五期の変遷へんせんがあることもわかりました。居住施設としての建物あとは、これまでのところ確認されていません。



これは中郭の南東側の虎口



その虎口を進んでみよう



東郭への二股の所に出る







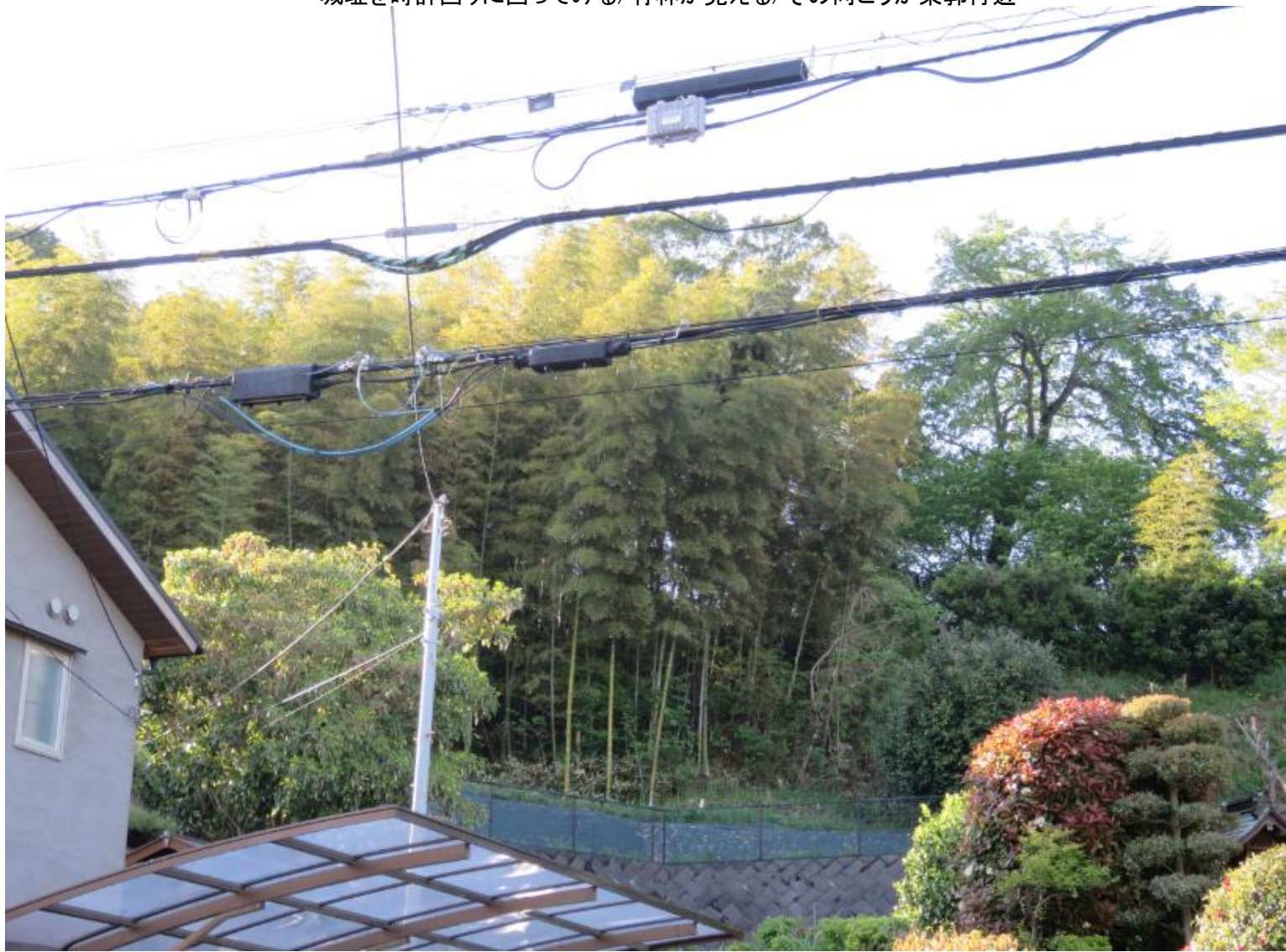
さて、これは南東側から茅ヶ崎城跡を見たところ/正面が東郭の辺り



その東郭の辺りをアップで見たところ/この右手が板碑が出土した辺りか



城址を時計回りに回ってみる/竹林が見える/その向こうが東郭付近



この辺りは城址の南側で根小屋があったエリア



前方は西郭/その手前が蔵骨器が出土した辺りか



西側に回り込んで西郭を見たところ/急峻な斜面(崖面)となっているのが見て取れる



左手を見たところ





これは北側に回り込んで西郭を見たところ



そこで振り返ると茅ヶ崎観音堂がある





扁額には園通閣と記されている



境内から東方向に城址を見たところ



もう一度全景を見る/北西側から見たところ



参考ホームページ

<http://iyokakuzukan.la.coocan.jp/007kanagawa/010chigasaki/chigasaki.html>

<http://yogokun.my.coocan.jp/kanagawa/yokohamasi02.htm>

<https://senjp.com/chigazaki/>

<http://yoshi-kanagawa.blog.jp/archives/27316974.html>

<http://www.siromegu.com/castle/kanagawa/tigasaki/tigasaki.htm>

<http://kahoo0516.blog.fc2.com/blog-entry-213.html>

[http://www.gregorius.jp/photogallery/page\\_b46.html](http://www.gregorius.jp/photogallery/page_b46.html)

<https://4travel.jp/travelogue/10635969>

<http://utsu02.fc2web.com/shiro149.html>

<https://ameblo.jp/castle-manabu/entry-11715519443.html>

<http://machimori.main.jp/details9179.html>

